

# 子育ては偉業

The care of children is  
a great achievement

「子育て」は  
「親育て」



子どもの成長段階と  
親の役割



賢い親は  
「受験」を活かす



音読実践の  
すすめ



# 子育ては偉業

The care of children is  
a great achievement



もくじ 子育ては偉業

パートⅠ 子育ては偉業である

- ①「子育て」は「親育て」 3
- ② 子育ての基本は人間力を育てること 6
- ③ 賢い親は受験を活かす 9
- ④ 「受験への悪いイメージが打ち砕かれた」 11
- ⑤ 親の最大の役割 15
- ⑥ 子育ては偉業である 18
- ⑦ 「胎児の魂、百まで」 22
- ⑧ 日本では古くから胎教が重視されてきた 24
- ⑨ 限りなく尊い存在であることを伝える 26
- ⑩ 胎児期の二つの特徴 28
- ⑪ 賢い親の「幼児期」の子育て 30
- ⑫ 幼児期における親の「心の持ち方と接し方」 33
- ⑬ 幼児期における親の「言葉と語りかけ」 36

パートⅡ 子どもの成長段階に応じた親の役割

パートⅢ 一日五分、音読実践法

- ⑭ 幼児期における「読み聞かせ」 40
- ⑮ 幼児期における親の「行動」 41
- ⑯ 賢い親の「児童期」の子育て 43
- ⑰ 親の「聞き上手」が子どもを伸ばす 45
- ⑱ 子どもがいやがる言葉を浴びせていないか 47
- ⑲ お手伝いで児童期の自立を促す 49
- ⑳ 賢い親の「自立期」の子育て 51
- ㉑ 「自尊心」を大切にしてあげる 53
- ㉒ しっかり受けとめてやる 56
- ㉓ 子どもを本好きにする 58
- ㉔ たかが一冊、されど一冊 61
- ㉕ 一日五分間、音読のすすめ 63

パートI  
子育ては偉業である

①「子育て」は「親育て」

わたし  
私たち親は、ひたすら子どもの成長を願っています。その分、子どもへの期待も大きくなるでしょう。

そこで忘れてならないことがあります。子どもの向上を願うのは親として当然の願いですが、親と子は本来、ともに向上する関係にあります。親が向上すれば子どもも向上し、子が



向上すれば親も向上するという関係になつているとき、子どものほんとうの成長が可能になるということです。

親が、「子育て」は「親育て」であると自覚してこそ、ほんものの子育てができるのです。Nさんは、五十代の主婦ですが、二十代で結婚し、お子さんに恵まれました。ところが、次女がまだ幼かったころ、二人いっしょに交通事故に遭われました。娘さんは脳が飛び出るほどの重症を負いながら奇跡的に助かりましたが、脳に障害が残りました。ご自分も股関節を痛め後遺症が残りました。二人とも身障者になつてしまつたのです。

Nさんは、その娘さんをなんとか自立できるように育てようと、できることは何でもしたそうです。自分の不自由な体にむち打つて、障害者の親の会や地域の親子会にも参加しました。わが子の成長に役立つと思えば、何にでも必死に取り組んだのです。

それは、Nさんにとって肉体的にも精神的にも苦勞の連続でした。あまりの厳しい現実を目の前にして、すべての希望が消え失せ、絶望のどん底に突き落とされそうになることもたびたびだつたといひます。

それでも、Nさんの献身的な子育ての甲斐もあつて、娘さんは立派に成長し、将来の夢

を見つけて自立への道を歩むまでになりました。

いま五十代を迎えたNさんは「艱難は人を育てる」という言葉を心から実感しています。障害をかかえるわが子を何とか自立させようとかむしやりに生きてきた人生を振り返って、障害をもったその子のおかげで自分は人間として育ててもらえたと感じているからです。

Nさんがこんなふうに語っています。

「四十代までの人生を振り返ったとき、すべての事柄、事件は偶然起こるのではなく、ある流れの下に、ある法則の下に、そのとき、そのときに合わせて自分の向上に必要な事柄が起こり、出会ってきたことを発見しました」

子育ては、親にとって自分育てでもあるのです。だから、どんなときでも感謝して子どもと向き合っていくことができますのです。

一口メモ「艱難」

困難に出あって苦しみ悩むこと。また、そのさま。

#### 4 「受験への悪いイメージが打ち砕かれた」



これから紹介しますのは、「受験」をテーマにした作文コンクールで入選した中学校三年生の作品からの抜粋です。

受験が自立期の子どもたちにとって、どんな体験になっているのか、手に取るように伝わってきます。

私は勉強がすごくいやだった。夏休み中も、すごく苛立っていた。私を助けてくれるものは何もなかった。テレビ番組を見て笑っていても、楽しいのはそのときだけで、終わってしまうと、無力感やもうこんな時間かという焦りが残るだけ。

でも、私は規律のない生活を毎日くり返していた。

こんなことなら、夏期講習に行けばよかったと何度も思った。行っている友達とは、帰ってきてからすぐ勉強して、深夜一時ごろまで塾の宿題をやると言っていた。私なんか朝か

ら怠けながら、だらだら勉強で、ちっとも身が入らないし、人に追い越されそうな不安でいっぱいだった。

私は、自分で立てたハードな計画に縛られ、焦りと無力感に追われて、その挙げ句、机から逃げていた。

たまたま立ち寄った書店で「楽しく充実した受験生活」という言葉が載った本（百瀬昭次著）が目に入り、読みはじめた。

まずシヨックだったことは、自分以外の受験生を競争相手としてとらえることは間違いだということだ。

それまでの私は、テストのときも、自分の過去の偏差値と比較することより、順位ばかり注目していた。自分の実力がついたかどうかよりも、何人の人を追い越したか、何人の人に抜かれたかが気になっていた。

受験で大切なのは、自分の力をいかにつけ、いかに発揮するかを心がけるだけなのだ。それなのに、私は点数を競い合い、自分がやったことを振り返りもせず、人の点数ばかり気にして……。何点取れたかより、自分の頭でどれだけ理解しているかが大切だったのに。



わたしは「勉強」にとらわれすぎていた。合格のための勉強を意識しすぎていた。もちろん志望校に入りたい。それが私の目標だが、それを果たすためには、いまやるべきことをしっかりと見つめ、やり続ける。その積み重ねを毎日続けていく。

たったそれだけのことを私は見失っていたことに気づいた。

すると、誰から言われたわけでもないのに、勉強したいという思いがふつふつとわいてきた。こんなにもやる気を感じたのはすごく久しぶりのことだった。

「受験」という言葉には、合格に向けてひたすら勉強する、つらい、つまらない、だから、やらねばならないものというイメージしかなかった。

でも、受験は私自身の向上のために与えられたチャンスなのだ。この私が頑張った証を残せるチャンスなのだ。そう前向きに考えられるようになった。

「計画どおりでできなかったと自分を責めるより、たとえわずかでも残した実績を評価するべきです」

これは、本の最後に記されている短いけれどとても勇気が出る言葉だ。

この勇気があれば、受験だけでなく、一生、何にでも打ち勝っていけると思う。

この入選作品は、子どもたちにとって、受験がいかに人生についての学びの場になって  
いるかを教えてくれています。

親としては、試験の点数が上がり、合格してくれることだけに目がいきがちです。しか  
し、人間力を育てる絶好の機会として子どもが受験体験をしているという認識をもって、  
親が向き合っていけば、子どもはじつに多くのことを学びながら成長していけるのです。



## 監修者紹介

---

### 百瀬 昭次 (ももせ あきつぐ)

1937年長野県松本市生まれ。1960年北海道大学理学部物理学科卒業。日本製鋼所入社。1968年鋼の凝固の研究で日本鉄鋼協会「俵論文賞」を受賞。その後、教育の荒廃に着目し、1976年百瀬創造教育研究所を設立。「ももせ方式」を提唱し、教育委員会、学校、各種教育団体と協力しながら、教育改革の促進に尽力。教職員や児童、生徒、親、さらに企業人を対象とした講演も多い。音読による教育を推進し、そのための書籍も多数執筆。

---

編集協力 岩倉淳 山崎優

●講演・本のご注文は下記にお問い合わせください。

〒168-0063 東京都杉並区和泉4-48-14-301  
百瀬創造教育研究所  
TEL&FAX 03-3316-1433  
E-mail : info@momose-souzou.com  
URL : <http://www.momose-souzou.com/>

**子育ては偉業** The care of children is a great achievement  
子どもの成長に応じた親の役割が見えてくる!! 姉妹冊子「脳が喜ぶいい話」

---

2011年4月1日 第1刷発行

発行人 山本千秋

発行之所 全国小・中学生学力カップ運営委員会

郵便番号 162-0843

住所 東京都新宿区市谷田町3-1 eisuビル市ヶ谷

電話 03(3235)0553

F A X 03(3235)0554

編集協力 百瀬昭次 山崎優 岩倉淳

無断転載を禁じます。

©Cosmo21 2011, Printed in Japan



定価：550円（消費税込）